

住民参画型事業 6つのステップ

実際にどんな流れで行うのか、6つのステップでご紹介します。施設によって各ステップの時期や内容は変わりますので、詳細は住民参画型事業を実施する施設にご確認ください。

STEP 1 参加者募集・説明会に参加しよう

事前に住民むけの説明会を開催する施設もあります。友人などを誘って参加してみましょう。説明会がない場合は、企画会議の日程などを施設に確認しておくといいでしょう。



STEP 2 企画会議 01 「アイデアを出し合おう」

事業の目的や、スケジュールなどを踏まえて、参加者みんなで、何をするかアイデアを出し合しましょう。「やりたいこと・得意なこと・地域に求められていること」の3つを軸に考えるのがポイントです。



STEP 3 企画会議 02 「企画を具体化させよう」

たくさん出したアイデアから、開催時期や来てほしい人、実施内容などを具体的に考えましょう。ここで決め切れない場合は、自主会を開きましょう。



STEP 4 企画会議 03 「当日に向けた準備をしよう」

当日にむけて、それぞれが準備することなどを役割分担して進めましょう。当日の流れをみんなで把握しておくことも大切です。必要に応じてリハーサルや前日準備も行いましょう。イベントの告知や備品の準備など、できることは施設に任せるのではなくみんなで分擔しましょう。



STEP 5 事業実施当日 「事業を実施しよう！」

当日は皆さん自身が何よりも楽しみながら、実施しましょう。始まる前は最終確認、終わった後は簡単に当日をふりかえりましょう。

STEP 6 ふりかえり会 「今後に向けてふりかえろう」

せっかく生まれた事業を継続させていくためには、みんなでふりかえることがとても重要です。当日の写真や動画、また来場者のアンケート結果などをみながら、次回以降の方向性や、継続して行うための仕組みも検討しましょう。



いかがでしょうか？ 興味が湧いてきましたか？

文化施設で新しい文化芸術活動にチャレンジしてみましょう！あなたのご参加をお待ちしています！

文化施設で
自分がやりたいこと
実現させませんか？

文化施設とつながる

住民参画型 事業



住民参画型事業って？

あなたの住んでいる地域にある文化施設では、地域の文化や伝統行事に加えて、暮らしを豊かにする音楽・演劇・ダンス・映像・デザイン・アートなど、あなたがやりたいテーマを文化施設の職員といっしょに企画して実行できます。これを「住民参画型事業」と呼びます。

地域の文化を住民の手でつくり、芸術文化のちからで地域を元気にしていきませんか？

3つのイイコト！

1 自分たちだけではなかなかできない、新しいことに挑戦できる

2 他の団体や個人とのつながりが生まれる

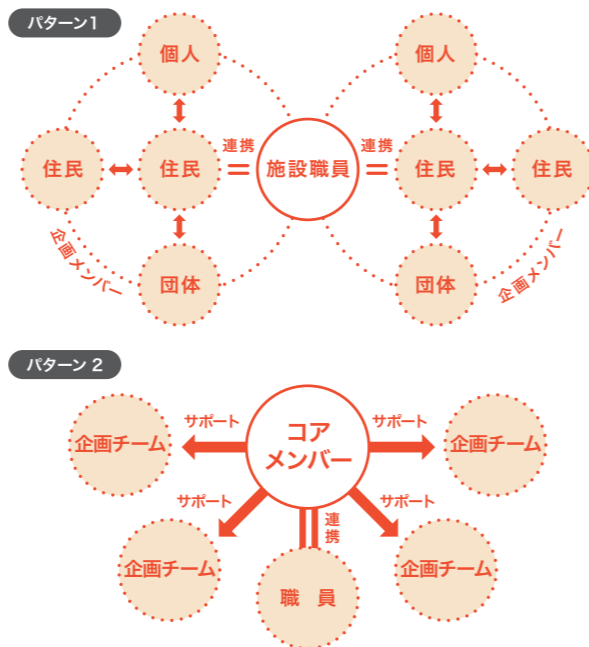
3 活動の仲間が増えたり、新しい参加者と出会えるかも！

進め方、関わり方はさまざまです!

住んでいる地域のニーズや文化施設の特徴に合わせて、さまざまな進め方があります。

- パターン1** 地域のみなさんのやりたいことをゼロから一緒に考えて実行する
- パターン2** 文化施設が考えたテーマの中で、地域のみなさんがやりたいことを一緒に企画を考えて実行する
- パターン3** 文化施設が参加してほしい世代や対象者を決めて参加者を募り、企画と一緒に考えて実行する

参画型事業では、施設の職員も地域の皆さんも事業と一緒に進めるパートナーです。互いの得意なことを生かし、対等な関係でアイデアを出し合い、準備しましょう。事業の目的や地域のビジョンを考えて一緒に事業を運営するタイプから、やりたい企画を考え実行するタイプ、当日のお手伝いだけなど関わり方もさまざまです。



県内の事例

令和4～5年の2年にわたって、広島県内の3つの文化施設で、住民参画型事業を行いました。地域の特色や、参加した住民の活動内容、関わり方の違いなどから三者三様の事業が生まれていました。

CASE 1

ジーベックホール (府中市文化センター)

パターン2

府中市では、コロナ禍からの文化芸術活動の再開、個人の文化芸術活動を体験できるワークショップイベント、楽器愛好家向けの演奏レクチャーと交流演奏会などを実施。団体同士の横のつながりや、施設利用の少ない子育て層の来場機会を生んだ。

「ふちゅう芸能まつり 和太鼓フェスティバル」

和太鼓団体が共同制作しての演奏披露会を開催。普段は個別の演目が多いなか、今回は特別にコラボ演奏などを企画しました。また、子どもたちにとっては、ホールという舞台で披露する貴重な機会となりました。事業終了後、団体への加入希望があったり、翌年度は実行委員会をつくり継続実施につながりました。



「センターまるごと!ワークショップフェス」

さまざまなジャンルの市民団体や個人作家が集まり、普段楽しんでいる芸術文化活動を、はじめての人でも体験できるワークショップを企画しました。30ものプログラムを企画し、1日楽しめるものとなりました。



「田川ヒロアキ 音楽堂」

府中市に縁のあるプロミュージシャンによる、楽器演奏レッスンと、合同演奏・ライブイベント。普段はなかなか発表の機会がない個人で演奏を楽しんでいる楽器愛好家を対象に開催。当日レッスンを通しての交流にもつながりました。



CASE 2

はつかいち文化ホール ウッドワンさくらびあ

パターン1 パターン3

廿日市市では、これまで行事利用以外での来館が少なかった高校生に声をかけ、事業を企画・実施しました。高校、および高校生が施設を利用する機会づくりにつながりました。また、事業を通して高校を超えた学生同士の交流も生まれました。

「発表(はっさん)の会」

高校生の「自分が好きなことをくたばるまで話したい、そして気の合う仲間を探したい」というアイデアから、「音楽・歌」「手品」「メイク・ファッション」「ロボット」「歴史」「料理・ごはん・お菓子」の6つの話したいテーマを用意し来場した人と話し合いました。



「高校生合同文化祭」

高校生の、コロナ禍で発表の機会が減っている部活動の発表の場を他の高校とも連携してつくりたいというアイデアから合同文化祭を企画。5つの高校の部活に声をかけ13団体が参加しました。当日はボランティアも募りました。



「高校生合同文化祭」

前回企画した合同文化祭に新たな部活が参加、体験ワークショップも行い来場者が観覧だけでなく参加できるようなプログラムも実施し、パワーアップさせました。毎年の事業となるよう、継続の方法を検討しています。



CASE 3

せらにシタウンセンター・せら文化センター

パターン1

世羅町では、事業の目標設定から地域の皆さんと検討を重ね、事業を推進するチームが結成。「若い世代のやりたいことを実現させる」をモットーに中高生たちがやりたいことを企画。その実施をコアメンバーがサポートしています。また、ジャンルを絞らずゼロから企画することで、これまでの枠にとどまらない事業が生まれています。

「地域の手作り芸術祭り ラッピーせらポン」

地域の小中学校の伝統芸能の上映と企画会議メンバーが考案した巨大神経すいじゃくゲームイベント。コロナ禍で地域住民が学校行事に参加できなくなったことを受けて企画した上映会と、ホールのあたらしい使い方として、世羅町の魅力を使った巨大神経すいじゃくゲームを企画しました。



「中高生と一緒に企画した 地域の手作り芸術祭 せらポン」

中高生が企画した、アニメにでてくる料理の再現や中高生で流行している歌詞動画上映、eスポーツの大会などを、2会場に分かれて実施しました。事前にみんなで集まって試作やりハールも行いました。



「中高生と一緒に企画した 地域の手作り芸術祭 せらポン!2」

中高生とともにつくる芸術祭の第2弾。前回の改善点もふまえ、2つのチームでプログラムを企画。パンケーキアートでは、参加者がホイップなどでデコレーションしたものを撮影し、展示しました。また、今回は会場を1箇所にし、参加者の回遊性も検討しました。

